

アジア通貨高・ドル安の勢い一服、円高制御 通商摩擦前への修正は進捗、米国「国内雇用重視」不変

(株) ジャパンエコノミックパルス

Japan Economic Pulse Co., Ltd.

info@j-pulse.co.jp

2020/12/25

為替相場ではアジア通貨高・ドル安の勢いが一服となっており、短期的には円高制御の要因として注目される。10 月前後からは米大統領選での民主党バイデン候補の優勢と勝利を受けて、通商摩擦の緩和期待がアジア通貨高を促したほか、コロナ感染のアジア抑制と米国再増加などもアジア通貨高に寄与した。しかし、すでにアジア通貨は通商摩擦前への修正反発が進捗し、アジアでも感染再増加が懸念されている。米新政権でも「国内雇用重視」は不変であるほか、最近のアジアでは通貨高の悪影響が問題視され始めた。

韓国は通貨高打撃を懸念、通貨高・株安が一服

「中長期的に韓国ウォンが対ドルで 10% 上がれば、韓国の総輸出は 3.4% 減少すると推定される。輸送設備で 3.8 ポイント、一般機械で 2.5 ポイント、精密機器で 2.4 ポイント、電機電子で 2.3 ポイントの大幅な輸出減少となる恐れがあり、いずれも中小・中堅企業の割合が高い分野となっている」――

韓国の産業通商資源部は 22 日、中小企業為替変動リスク管理支援懇談会を開き、最近のウォン高・ドル安に対する輸出対策を協議した。会合では民間シンクタンク・現代経済研究院から、このような試算が示されている（韓国紙・中央日報が紹介）。

韓国ウォンは 10 月前後から対ドルで上昇が加速され、12 月 23 日のアジア市場時点では 9 月末からの対ドル直物（スポット）リターンが +5.60% となっている。アジア主要 12 通貨の中では第 1 位の上昇率となってきた。

一方でここに来て、韓国ウォンを始めとしたアジア通貨については、対ドルでの上昇の勢いが一服となっている。背景としては韓国などでもコロナ感染が再増加してきたほか、英欧でのコロナ変異種を受けた安全逃避のドル買い戻しなどがある。同時に韓国政府の通貨高懸念のように、アジア各国で通貨高の悪影響が懸念され始めた。

最新 11 月の日経アジア製造業 PMI 指数では、アジア通貨高の打撃要因もあって、マレーシアが 10 月の 48.5 から 11 月は 48.4、タイが 50.8 から 50.4、インドが 58.9 から 56.3 などと減速した。アジア経済の回復ペース鈍化が、先行観測されつつある。

目先の為替相場ではコロナ変異種懸念とあいまって、アジア通貨安・円高などによるリスク回避の円高が改めて警戒される。ただし、10 月前後からはアジア通貨高・ドル安の加速が、同じアジア通貨である円を対ドルで押し上げてきた。その分だけ短期的には、ドル安・円高の制御に作用する可能性がある。

すでに韓国では文在寅大統領が 14 日、「対ドルでのウォン高に苦しんでいる輸出業者を支援する措置が必要だ」と表明している。同大統領はコロナ感染の再拡大で「内需・消費が縮小している」としながら、その中での通貨高と輸出圧迫による「内外需の二重打撃」に警戒感を強めている。韓国株の韓国総合指数は 11 月からの過去最高値推移を維持しているが、12 月 14 日を高値にウォン高・株高の勢いが鈍化。上げ渋りから小幅な調整反落へと移行しつつある。

韓国ウォンは対ドルで、12 月 10 日に 2018 年 6 月以来の高値を更新したところで調整反落に転じてきた。2018 年 6 月といえば、米トランプ政権が中国から輸入される自動車や情報技術製品など 1102 品目に対し、7 月 6 日から段階的に関税を強化すると発表するなど、米中貿易戦争が激化し始めた起点だ。韓国ウォンも 2018 年 6 月のあと、対米輸出の打撃懸念などで急落となっている。それが足元では米バイデン政権の発足を受けた「通商摩擦の緩和」を織り込む形で、摩擦前のウォン高水準まで修正が一気に進捗してきた。

「通商摩擦前」まで反発進展、一段高には時間も

韓国ウォンなどのアジア通貨が、「通商摩擦前」を超えて一段と上昇していくには、コロナワクチンの本格普及や、主要輸出先である中国、米国、欧州の一段の景気回復など、新たなエンジン材料が必要になってくる。

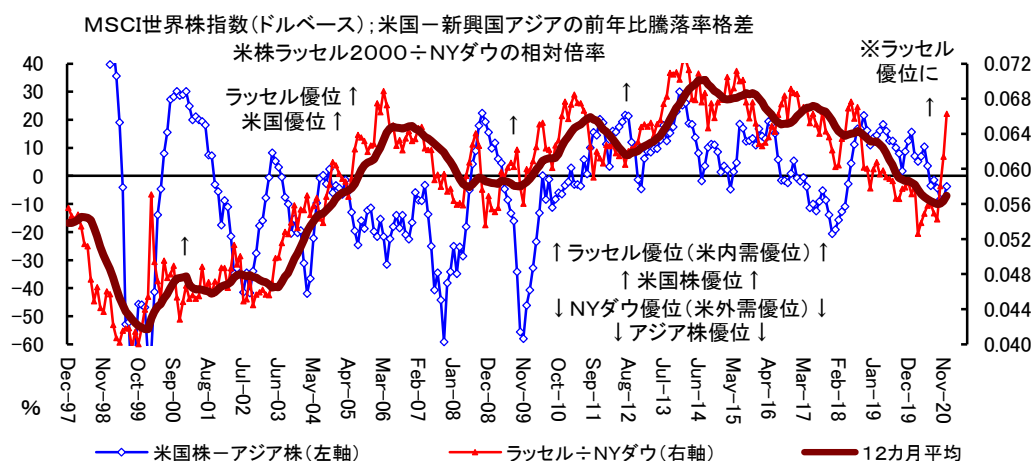
しかし、足元ではアジア牽引役である中国で、コロナ打撃からの反動回復ペースが鈍化してきた。景気対策の息切れや人民元高の打撃もあり、中国株の上海総合指数は 23 日時点の 1 カ月間成績が -0.94% のマイナスに転じている。上海株は韓国株に先行する形で 12 月 2 日が直近高値となり、人民元高と株安の勢いが一服となってきた。

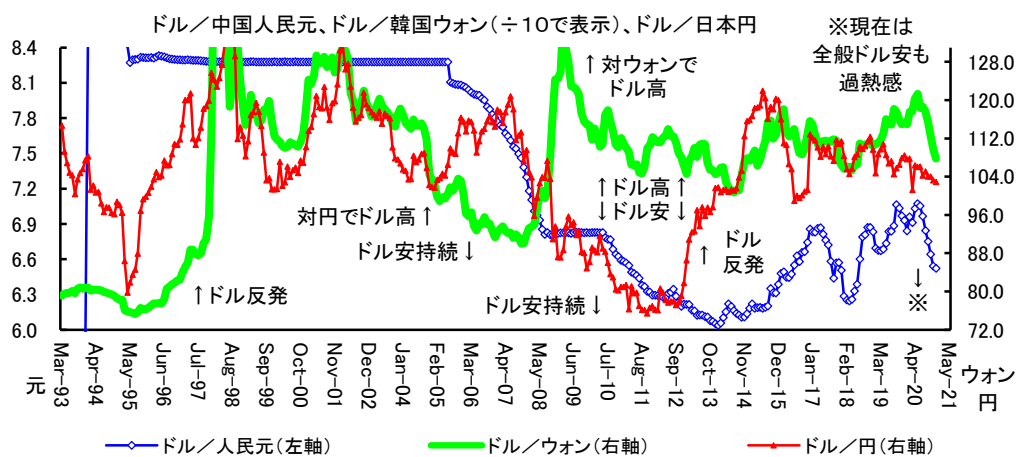
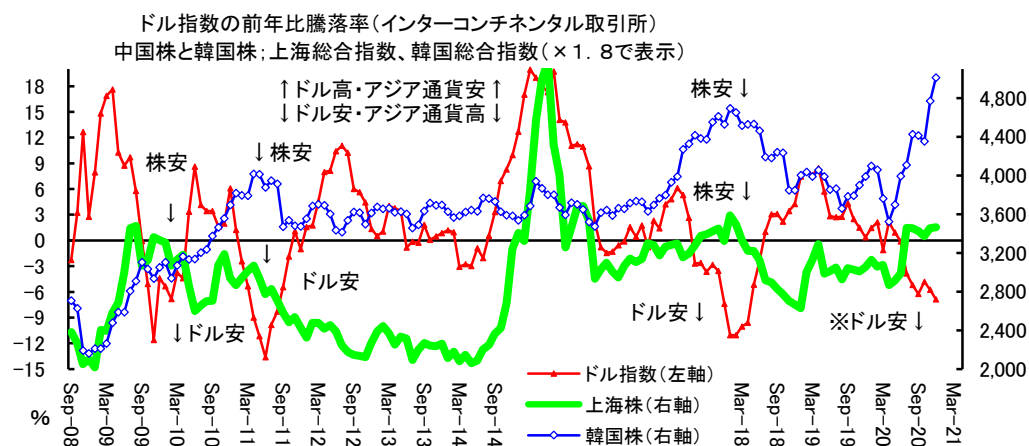
おりしも為替相場の月足テクニカルでは、一目均衡表チャートで人民元/ドルは重要上値抵抗線である雲下限に到達したところで、上値を抑えられている。韓国ウォン/ドルのほうも雲上限を一気に上抜けたが、そこから過熱調整のウォン反落となってきた。過去にウォンの対ドルでは 2019 年や 2016-2017 年にかけて、雲の下限や上限で上値がブロックされている。2018 年には現在のような上抜け場面があったが、短期間で反落。雲上下限を再び下抜けるなど、強力な上値抵抗線として機能してきた。

過去にもドル安とアジア通貨高の加速が、時間差を経て中国株や韓国株の反落一因となるパターンが

しかも米国ではバイデン新政権で通商摩擦が緩和されても、米国政府による「国内雇用の重視」政策に変わりはない。アジア通貨の「通商摩擦前への水準回復」を超えた一段高を抑制させるものだ。

さらに通商政策では、中国その他の国による為替操作、反競争的ダンピング、国有企業の乱用、不公正な補助金などの不公正な貿易慣行に対して、積極的な貿易執行措置をとるとしている。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。